

平成22年度 第2回市民活動サポートセンター運営委員会 会議概要

平成22年8月19日(木) 18:30~20:00

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席委員 11名…井上、鷹野、小野、河村、木曾、佐倉、前川、根本、増田、永島、渡辺
事務局 2名…市民生活課 山口、今野
指定管理者 2名…NPO法人YMCAコミュニティサポート 田邊、大島(理)
傍聴者 0名

1 報告事項

最初に急逝された本間委員のご冥福を祈り、全員で黙とうした。

[意見概要]

1-(2) 利用状況・利用者の声について

(指定管理者)

- ・土日の14時から15時の間で集中して交流サロンが込むことがあった。
- ・利用者の声でパソコンの動作が遅いとの指摘があった。セキュリティを高く設定しているため、どうしても遅くなる上、こちらでもクリーニングをかける等、改善を試みているがデータが蓄積されているため仕方ない面もあることをお話している。

(運営委員)

利用状況などの表の8月以降の欄全てに0(ゼロ)が入っているのはおかしいのではないかと

(指定管理者)

エクセルの計算上ゼロが入ってしまっているの、次回から消して出すこととする。

1-(3) 夏の市民活動体験中間報告

(指定管理者)

- ・まだ参加できる10くらいのイベントはブログで呼びかけたりポスターを貼ったりと広報に努めている。
- ・今回初めて7月に神奈川県立保健福祉大学で5団体の出張PRをしてきた。結果、学生の参加が多くなったと報告があった。市役所でイベント情報(冊子)を見て参加してきた中学生もいたので良かった。昨年からのリピーターの学生もいた。

(参加した運営委員)

5分間のPR時間はとても短かったが、13名の参加学生があった。全員の方が「次も知らせてください」と言ってくれた。手ごたえがあつてうれしかった。県大PRは続けてほしい。

(指定管理者)

県大の授業の中で団体PRしたいという話は3月くらいから話をして詰めていった。授業で取り上げるからには、しっかりとした参加団体でないと、ということで準備も大変だったが、生徒も先生もこんな団体があるということが知ることができてとても良かった、学生も関心を持ってくれたので継続してできたらと思っている。

1-(4) パソコンルームについて

(指定管理者)

・平成23年4月30日で6台のパソコンのリースが切れるということでその後の話をするため、7月7日に情報化支援ボランティアのネットワーク会議を開催した。今32人のボランティア講師が講座を持っている。センター主催(市民活動をしている団体向け)とフリープラン(市民公益活動をしている団体向け)の2種類ある。平成24年の3月末までは現状通り、パソコン講座を続けることになっている。今まではパソコンルームとして運用してきたが、それ以外の団体にも開放するような今までと違う運用をしていくという話をした。

・パソコン講座も10年続けて来ているが、フリープランの講座については、市民公益活動団体に限っている。こちらの伝え方の問題もあり、誰でも受けられると思われたりするなどルールが守られないようになってきた。それをもう一度、見直しましょうという話もさせて頂いた。

(市民生活課)

補足として……。いままでパソコン講座用としてだけ使ってきた部屋だが、それだけに特化して使っていくのもどうか、という色々な意見がある。それに、OS ソフトが古くなったが、買い換えるお金が市にはないこともある。それもあって見直しとなった。事前に運営委員会に通すべきだったかもしれないが、先に講座をして頂いている講師の方々に話をさせて頂いた。そのようなことなので、今回は結果報告として聞いて頂きたい。

(運営委員)

講座のみに部屋を使うのではなく、有効に利用していくという考えからきた話なのか。

(指定管理者)

そうです。

(運営委員)

分かりました。

1-(5) NPO 法人への聞き取り調査について

(指定管理者)

4 月から準備をして、6 月から実際には聞き取り始めたが、31 団体申込みがあった。市内の登録 NPO 法人は 102 団体あるので、およそ 3 分の 1 の申込みがあったことになる。

申込みがあったのは、NPO 法人として福祉や引きこもり支援などいろいろな活動をしている団体である。現在 6 団体へ聞き取りが終わっている。

団体の場所に伺うのが一番良いのだろうが、サポートセンターに来て頂ける場合にはサポートセンターで聞かせて頂いたりしている。自分たちの団体を知ってほしいということで皆さん熱心に話をされる。2012 年 3 月にはまとめて A4 の冊子にしてサポートセンターで配ったり、学校に配布したり有効に活用していきたい。初めての試みなので改善を加えたりしながらやっていきたい。

1-(6) 団体交流会の報告について

(指定管理者)

・6 月 26 日に一回目が終わった。30 人くらいを見込んでいたが、36 団体、47 人の参加があった。運営委員の皆さんの中でもご参加いただき、ありがとうございました。今回は初めてなので、交流に重きをおいてざっくばらんに行った。

「時間が足りなくて忙しかった」という声もあった。「他の団体の様子が分かって良かった」「アドバイスを他の団体からもらった」「またやってほしい」という声も多くあった。

テーマを設ける会は話し合い中心、設けない会は交流中心というように分けて、3 月まであと 3 回行いたい。

・次回は 9 月 25 日(土)に開催したい。次回は申込用紙に 100 字紹介の欄を設けた。団体活動紹介を事前に少しして頂くことで交流しやすくした。ぜひ皆さんもご参加ください。

1-(7) 活動紹介コーナーについて

(指定管理者)

・前回の運営委員会の中で活動紹介コーナーの使用は年に 2 回という制約があるが、どれくらいのニーズがあるのか知りたいという声があったので、予約の予定表をはがして、代わりの張り紙をして問い合わせを窓口で集計しているが、今のところ日にちが重なって成立しなかったという例はない。

・実際にあった声として、「自分たちの予約した期間が分からない、なぜ予定表をはがしてしまったのか」というものがあった。受付で聞いて頂くか、電話で問い合わせてもらえるなどの方法が考えられるが、これについて運営委員の皆さんにご意見を伺いたい。

(運営委員)

自分も申し込もうと思っているが、活動紹介の表をみて、「ここが空いているからやろう」という感じで決めるのではないと思う。よく打合せや話し合いなどの準備した上で行っていくのが良い。綿密な準備が必要なことなので、「予定が分からない」状況にはなってほしくない。それでも、もし必要なら予定を書いてもらうか、コピーを差し上げるなどくらいはしてもいいのではないか。申込み時に何をしたいとか書いてもらうのもいいのでは? なるべくハードルを高くしたくはないが、独占利用することになるのでそれくらいの思いでやってほしい。

(指定管理者)

今でもコピーを、と言われればお渡しするし、問い合わせには答えている。申込み時には簡単に内

容を書いてもらっている。パネルの使い方についてはアドバイスしていないので、そのことは別の機会にこの会で話し合うことができればいいと思う。

(運営委員)

サポートセンターに問い合わせる前に、団体間でまず確認して頂いてもよいと思う。

(指定管理者)

準備の確認をしたいので、一週間前にこちらからパネルの数などは問い合わせている。

(運営委員)

活動紹介コーナーと名前が変わっているの、自分たちの活動を紹介するのが主だ。展示会ではない。

(運営委員)

この活動をして、このような作品ができました、というくらいの展示をするのは良いが、個々の作品を飾るような作品展ではない。

(運営委員)

写真でもただ撮ったのを展示すると作品展になってしまう。みんなで撮影に行った時の状況や、講師の指導を受けているところの写真が必要だ。「必ずそういうものを展示に入れてください」とお願いしたらどうか。

(運営委員)

もし作品展になってしまっていたら、次回から注意をすればよい。

(運営委員)

活動紹介なのだから、その先に見えるのは「みなさん参加しませんか」という PR だろう。それには何が必要か、ジャンルによって違ってくるだろう。「行ってみたい」と思わせるような工夫が必要だ。

(指定管理者)

何を展示すべきかは、紙面で書くべきことではないと思っている。マニュアルばかり増えるのもいけないと考えている。口頭で説明をさせて頂いた後は、団体の皆さんの意識の問題で、最低限の展示があればそれ以上は言えない。意識が高い団体はそのような展示をしている。

(運営委員)

サポートセンターの夏の市民活動体験は良い「活動紹介」になっていると思う。

(運営委員)

「展示コーナー」から「活動紹介コーナー」に変えたいとなったのはどうしてか。以前聞いたような気もするが。「展示コーナー」の時は作品展のような展示もあったようだったが。

(指定管理者)

内容、ルール等は変わっていないが「展示コーナー」とすると活動紹介ではなく作品を展示するだけで良いかのように誤解されるので「活動紹介コーナー」とすれば分かりやすいのではないかとということで名称変更した。

(事務局)

過去の例で、自分たちの考えを主張したいという団体の申し込みがあった。それから、完全に作品展をやりたいという団体もあった。そういうことで「活動紹介コーナー」となった。

(指定管理者)

会員を増やしたいという理由で活動紹介をしたいという団体は多いと思う。

(運営委員)

名称変更によって何か変わったのか。どちらかというとし込む側に対しての名称変更ではないか。

(運営委員)

何かやりたいことを求めていたり、何かの団体に入りたいと考えてサポートセンターに来ていたりする人や一般の市民に対して、もっと個々の活動を認知させるようにできないだろうか。もっと広がりをもってほしい。同じメンバーだけで動いているのが現状ではないか。

(運営委員)

他の人々に広めるのに効果があるのは自分が動いて口頭で広めていくことだ。チラシをまいても効果がない。

(運営委員)

運営委員の中でも、団体に所属しない方が選ばれるなど確実に新しい時代になってきていると思う。広がるためには、交流会などもあるが、自分が積極的に出る事が必要だ。

(運営委員)

まず何かに入ってみる事が大切だろう。

(運営委員)

予定表を貼らずに受付で希望を聞く事にしたのは、重複した場合に早いもの勝ちで不公平だからか。

(指定管理者)

基本的に先着順で受け付けているが、予定が入っているからとあきらめている団体がいるのではないかという考え方からである。

(運営委員)

新規の団体が、何回も紹介している団体と重複した場合には後者に「お譲りください」ということも可能かもしれない、と想定してのことか。

(指定管理者)

そうです。

(運営委員)

それでも、一か月前には確定しているだろう。それなら予告のような形でだせば、他の団体にも宣伝になるし、変わったならそれも分かるので良いのではないか。ホームページなどにも載せられないか。

(指定管理者)

次回からそうしたいと思う。

(事務局)

次第にある報告事項(5)(6)は指定管理者が独自に実施する事業になっている。

2 審議事項

2-(1)市民公益活動団体について

(運営委員)

新現役の会「横須賀・三浦」支部はこれから何をやるのか分からない。もう少し具体的なものがないと公益性(の認可)を出せない。(同意見あり)

(指定管理者)

夏の市民活動団体にも参加し、他にも地域デビュー講座などもシニア向けに開いている。若い世代にも自分たちの仕事の経験を伝えていくような活動もしている。夏の市民活動体験を一つの実績と考えた。かなり頻繁に会議をされているし、会員も徐々に増えていっているようだ。これからサポートセンターのイベントにも参加したいと言っている。サポートセンターのイベントは公益性がないと参加できないので今後のことも加味して公益判断を出した。今後の行方を見守って見直すこともできる。

(運営委員)

長い目で見たらいいのではないか。

(運営委員)

何をやるかわからないが期待だけで公益判断を出していいのか。もっと責任を持つべきではないのか。それとも新しく期待だけでも公益判断をするというような、そういうルールを作っていくのか。少し論議すべきではないかと思う。

(指定管理者)

実績の判断基準はないが、これからの期待で公益判断を出すこともあっていいのかという論議をする段階に来ているのかもしれない。

(運営委員)

いつもここに書いてある文章だけで論議することが多いが、館長が申込時に話を聞いて判断しているのだからいいのではないか。

(運営委員)

少しそういったことにも留意して判断してもらえばいいと思う。

3 その他

(1)意見交換会について

続けていくことを確認。